

學會の動き

經濟學史學會（第一四回大會）

大會は、一九五六年一月二・三の兩日、同志社大學にて開催された。第一日午前の總會は、まず本學名譽教授上田辰之助會員の逝去をいたみ、黙とうを捧げたのち、諸報告に入り、次の諸事項が報告・審議決定された。

一、學會幹事會、各部會等の報告が行われた。
二、新入會員二一名が承認され、會員總數は三八三名となった。

三、大河内常任幹事は幹事に、石原幹事が常任幹事に變更、また上田監事逝去にともない關會員が監事に就任した。

四、次の第一五回大會は来る五月一一・一二の兩日、明治大學にて開催の豫定であり、その際の共通論題は關東部會による立案にもとづき、「經濟發展と資本蓄積の理論」とし、古典學派（英・佛）、マルクス經濟學、近代經濟學それぞれについて報告が行われることに決定した。

五、一九五八年はケネー「經濟表」初版印刷二〇〇年に當るので、學會として記念行事を行うこととし、準備委員を選出した。

六、古典翻譯（ステュアート）古典翻譯（マルクス）剩餘價值學說史（新版）の計畫がすすめられることとなった。

七、一九五七年秋、グラスゴー大學教授ミック氏來日に際し、學會としても歓迎の準備をすすめることとなった。

研究報告會は第一日午後、自由論題にて次の報告が行われた。

一、ジョン・ステュアート・ミルと社會主義思想

大阪府 福島 行三氏
立大學

二、ヴェブレンにおける消費の思想について

早稲田 渡谷 行雄氏
大學

三、リカードの「Essay on Profits」の考察

九州 中村 廣治氏
大學

四、松本定信の經濟論

千葉 多田 顯氏
大學

福原氏は、ミルの著作「經濟學原理」の各版および「遺稿」を検討し、個人主義・功利主義思想のもとに成長したミルが、時代の推移を反映して社會主義に對し先人とは異なる態度を示した點を指摘した。

渡谷氏は、ヴェブレンの消費理論が、その哲學思想を背景にして獨特の性格をもち、個人の消費行爲の直接的要因を習慣・制度に求めるものであって、この分析は近代經濟理論に對して有力な示唆を與える、と論じた。

中村氏は、穀物條例論争におけるリカアドオの立場を、*say on Profits* を中心にして考察し、かれが土地所有や交換価値の理論的説明をはたしつつ、ついに投下労働価値説に基づく一元的體系「原理」にいたるすじ道を考察した。

多田氏は、前回第一三回大會における報告（本誌第三六卷第四號参照）にひきつづき、寛政期社會經濟理論研究の一環として、松平定信の理論をとりあげ、その内容が、儒教的信條によりながら、實際の施政體驗と結び合つて展開され、自ら独自の性格をおびている點を指摘した。

日程第二日は午前午後を通じて共通論題「恐慌論」に當てられ、次の報告が行われた。

一、近代景氣循環理論の二つの型としてのシュンペーター理論
早稲田大學 伊達 邦春氏

二、シュビートホフの景氣理論について
都立大學 城座 和夫氏

三、經濟發展の一般理論——資本蓄積論の課題と方法——
大塚市立大學 吉田 義三氏

四、恐慌論の基本問題
立教大學 山本二三丸氏
中央大學 石原 忠男氏

五、恐慌論を進めるに於ける前書き
伊達氏は、恐慌現象を景氣循環の一つのさけうる局面として把える近代經濟學の一つの型としてシュンペーター理論を考

察、その第一次より第三次にいたる接近モデルを説明し、とくに新機軸について、その重要性を指示、さらにかれの社會學的性格に言及した。

城座氏もまた、近代經濟學による景氣循環理論の代表としてシュビートホフ理論をとりあげ、とくに好況から不況への景氣のくずれに關するかれの理論内容を検討・批判し、一九世紀末から二〇世紀初頭に於ける歴史的狀況との關連にふれつつ、かれの理論の性格を明らかにした。

吉田氏は過剰貯蓄—過少消費説が、なにゆえ増大する貯蓄率に照應して投資部門における不均等に高い率での蓄積をもたらさない、とするかについて分析不十分であつて、その點過剰投資説の再建を必要とする、とし、この投資決定と利潤決定とはそれぞれ *microscopic, macroscopic* な關係であつて、兩者を「加速度と乗數」によつて機械的に結合するのではなく、多部門分割の分析方法をとるべきことを示唆、さらに循環的變動を通じてのみ長期趨勢を説明しうる點に言及した。

山本氏は、従來の恐慌理論がマルクスによる再生産論、利潤率の傾向的低下法則、あるいはいはわゆる基本矛盾に立脚して立てられていながら、結局恐慌そのものやその可能性の把握において一面的であると批判し、全體系的な論理の一貫性が要請されることを指示した。

石原氏は、同じくマルクスによる過剰生産恐慌の把握によりつつ、その可能性から現實性にいたる論理を、商品生産におけ

一 橋論叢 第三十七卷 第三號

る價值法則と資本主義の基本法則たる剩餘價值法則とのからみ合ひによつて解明し、あわせて恐慌の政治的影響、社會體制發展の法則との關連を示唆した。

以上「恐慌論」に關する共通論題報告は非常に活潑な討論のうちに進められたが、座長石原氏の發言にもあるように、今後の一そうの展開が期待されるところである。

日程はここで終了したのであるが、大會の前日、十一月一日、學會主催のJ・S・ミル生誕一五〇年記念講演會が次の諸報告によつて行われたことを付記しなければならない。

一、明治初期の思想に及ぼしたジョン・ステュアート・ミ

ル

關西學
院大學

堀 經夫氏

二、ジョン・ステュアート・ミルの生涯と業績

關西
大學

杉原 四郎氏

三、ジョン・ステュアート・ミルにおける經濟學と社會學

關西學
院大學

大道安次郎氏

四、社會思想史上のジョン・ステュアート・ミル

京都
大學

出口 勇藏氏

(種瀬 茂、一橋大學講師・津田内匠、一橋大學助手)